

# 2026 年度シラバス

中学 3 年



駒沢学園女子中学・高等学校

## 宗 教(2026 年度)

単位数	1 単位
担当	遠藤 光賢
教科書	駒沢学園の仏教（駒澤学園） 道徳 3(光村図書)
対象生徒	中学 3 年

### 1. 授業の目標

駒沢学園の歴史と建学の精神を理解し、仏教主義学校としての理念を学ぶと共に、道徳に替わる教科として宗教に関する一般的な知識と教養を養い、興味関心を高めることにより、現代社会の諸問題に関する考察力を身に着ける。

#### 〔中期目標〕

建学の精神・日々のお唱えの意味と目的を学ぶことにより、駒沢学園がめざす生徒像を理解すると共に、釈迦の生涯を学ぶことにより、仏教の持つ道徳的な考え方を理解し、自分で考え行動できるようになる。

#### 〔長期目標〕

仏教を基盤とした道徳的な理念を理解し、より良き生きるためにどのように行動すべきか考えられるようになる。あわせて、「いのち」について考え、どのように生きていくことが大切か、各自が自分のこととして考えられるようになる。

### 2. 副教材・参考書

駒沢学園の仏教（駒澤学園）  
道徳 3(光村図書)

### 3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

朝礼や終礼・会食でお唱えする「三帰礼文」・「四弘誓願文」・「五観の偈」などを、丁寧にお唱えしましょう。また、式典への積極的な参加や挨拶や清掃など日々の活動を大切にすることが、授業の理解にもつながります。

日本の宗教に関する宗教一般知識を身につけるために、試験に向けては、テキストをきちんと読めるようになっておいてください。

### 4. 宿題・課題・再試について

- ・ 宗教科の授業で取り上げる社会の諸問題に関する探究授業では、グループワーク・発表を含みます。
- ・ 視聴覚教材を見ての、感想や意見などをロイロノートに提出します。
- ・ 予習・復習課題は、ロイロノートに提出します。
- ・ 坐禅実習は真剣に取り組みましょう。

### 5. 評価の基準について

- ・ 単元テストの得点(80%)、提出物と坐禅実習(20%)により評価をする。

### 6. その他

- ・ 授業内容は、実際の授業時間数などにより、順番が前後したりすることもあります。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	期末	<p>1、「花まつり」について【p52～p56】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「花まつり」が日本の季節の行事としてどのように受け入れられていたかについて学ぶ。</li> <li>・「花まつり」を題材として、「生命の誕生」とは何か、「いのち」とは何か考える。</li> </ul> <p>2、「五観の偈」を通して、現代の食・食育についての問題点などについて考える。</p> <p>3、日本の平安時代までの宗教について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の宗教の原点について考える。</li> <li>・神道について考える。</li> <li>・仏教の伝来と発展について考える。【聖徳太子・聖武天皇・遣唐使】</li> <li>・最澄と空海</li> <li>・浄土教の始まり</li> </ul> <p>4、坐禅実習</p>
二学期	期末	<p>1、「追善記念日」について【p57】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事としての「追善記念日」</li> <li>・「死」とはどのようなことか考える。</li> <li>・日本人は死についてどのように考えたのか、「地獄」・「極楽」などと結びつけて学習する。</li> </ul> <p>・宗教および信条に基づく暴力行為の犠牲者を記念する国際デー（8月22日）</p> <p>宗教および信条に基づく暴力行為の犠牲者を記念する国際デーを紹介し、インドのマハトマ・ガンジーや、南アフリカの人種隔離政策を撤廃したネルソン・マンデラらが残した人権にまつわる言葉を調べることにより、人類の歴史が血と涙の結晶により発展してきたことを知る。</p> <p>2、「摂心会」と「成道会」について【p58～p61】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事としての「摂心会」と「成道会」</li> <li>・摂心会が日本にどのように取り入れられてきたのか考える。</li> <li>・自分の生きる目的や意義について考える。</li> </ul> <p>3、写経・写仏</p> <p>4、日本の平安時代から鎌倉時代までの宗教について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浄土教の発展と鎌倉新仏教の成立</li> <li>・曹洞宗の成立と発展について</li> </ul> <p>5、坐禅実習</p>
三学期	学年末	<p>1、「誕生記念日」について【p62～p63】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事としての「誕生記念日」について考える。</li> </ul> <p>2、「涅槃会」について【p64～p65】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事としての「涅槃会」について考える。</li> </ul> <p>3、「山上忌」について【p66～p67】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事としての「山上忌」について考える。</li> </ul> <p>4、現代の宗教について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代から明治時代以降の宗教</li> </ul> <p>5、坐禅実習</p>

①中学3年 国語（現代文分野）

単位数	5単位の3
担当	時田 実和
教科書	国語3（光村図書）
対象生徒	中学3年

1. 授業の目標

「言葉」を楽しみ、文学作品に親しむ気持ちを育てる。

到達目標

- (ア) 本を年間30冊以上読み、語彙力・表現力を身に付ける。
- (イ) 漢検3級以上を取得する。
- (ウ) 予習をして授業に臨み、学習の習慣を定着させる。

2. 副教材・参考書

- ・国語のワーク3（光村教育図書） ・新国語便覧（秀学社）・セレクト漢字検定5級～2級（桐原書店）
- ・新中学問題集 国語3年（教育開発出版）

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- (ア) 予習・復習を宿題という形で随時出すので、生徒たちは必ず宿題を終えた上で授業に参加する。
- (イ) 授業の内容は毎時間明確に提示し、終了時に確認する。
- (ウ) 学習活動・課題は積極的に取り組めるよう工夫する。
- (エ) 提出物は完成した形で、期限を守って提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- (ア) 宿題…原則、毎時間出す。内容は授業で学習した範囲の復習と次の授業の予習を中心とする。
- (イ) 課題…1単元終了ごとに単元別試験を実施する。レポート作成などを行う場合もある。
- (ウ) C' Range テストを導入し、漢検3級以上の取得を目指して学習とテストを繰り返す。
- (エ) 2週間に1度、新中学問題集を1課題ずつ自宅学習し提出する。

5. 評価の基準について

- (ア) 単元別試験 50%
- (イ) 学力試験 30%
- (ウ) 以下の5点をパフォーマンス評価とし、20%

宿題の提出状況

課題の評価

小テストの得点

授業内に実施する音読や発表内容の評価

授業態度

- (エ) なお、観点別評価については単元別試験・学力試験を100%換算とする。

6. その他

C' Range 実施については、以下の通りとする。

- ① 1週間に1度、授業時間内で「セレクト漢字検定5級～2級」内の読み・漢字検定問題演習をMicrosoft Forms上のテストにて実施。
- ② 漢字の書き問題は、新出漢字も含めて毎回の単元別試験に盛り込む。
- ③ 1週間に1度、試験範囲の漢字練習を「セレクト漢字検定5級～2級」に直接取り組み、提出させる。
- ④ 100点満点、合格点を70点以上とし、不合格の場合は適宜課題や補習を課す。

学期	試験	授業内容 (教材)
第一学期	単元①	ガイダンス 詩「世界はうつくしいと」 小説「握手」
	単元②	情報 情報の信頼性 漢字に親しもう 1 漢字 1 熟語の読み方 論説「作られた物語を超えて」
	単元③	情報 具体化・抽象化 漢字に親しもう 2 情報 実用的な文章を読もう 情報 報道文を比較して読もう
	単元④	俳句「俳句の可能性」 俳句「俳句を味わう」 俳句の創作教室・言葉の釣り糸を垂らす
	単元 まとめ	言葉 2 和語・漢語・外来語
第二学期	単元⑤	詩「挨拶—原爆の写真によせて」 小説「故郷」 言葉 3 慣用句・ことわざ・故事成語
	単元⑥	論説「複数の意見を読んで、考えよう—正解が一つに決まらない課題と向き合う」 漢字 2 漢字の造語力 漢字に親しもう 3
	単元⑦	論説「それでも、言葉を」 詩「初恋」 漢字に親しもう 4
	単元⑧  単元 まとめ	水筆「アラスカとの出会い」 「律儀な桜」 漢字 3 漢字のまとめ 漢字に親しもう 5
第三学期	単元⑨	随筆「温かいスープ」 詩 「わたしを束ねないで」
	単元⑩	資料編「高瀬舟」

②中学3年 国語（古典・文法分野）

単位数	5単位の1
担当	時田 実和
教科書	国語3（光村図書）
対象生徒	中学3年

1. 授業の目標

古典への興味関心を育てる。古人の考え方や風習を理解し、古典に親しみを持たせる。  
基本的な文法事項を理解する。

到達目標

- (ア) 古文・漢文を読み慣れ、興味関心を抱いて作品に触れる。
- (イ) 百人一首を覚える。
- (ウ) 文法的事項を意識する。

2. 副教材・参考書

- ・国語のワーク3（光村教育図書）      ・新国語便覧（秀学社）      ・文法の学習（浜島書店）
- ・小倉百人一首（京都書房）      ・古文の基礎

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- (ア) 古文・漢文のリズムを体得できるように音読をする。
- (イ) 予習・復習を宿題という形で随時出すので、生徒たちは必ず宿題を終えた上で授業に参加する。
- (ウ) 授業の内容は毎時間明確に提示し、終了時に確認する。
- (エ) 学習活動・課題は積極的に取り組めるよう工夫する。
- (オ) 提出物は完成した形で、期限を守って提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- (ア) 宿題…原則、毎時間出す。内容は授業で学習した範囲の復習と次の授業の予習を中心とする。
- (イ) 課題…1単元終了ごとに単元別試験を実施する。暗唱テストなどを行う場合もある。
- (ウ) 2週間に1度、新中学問題集を1課題ずつ自宅学習し提出する。

5. 評価の基準について

現代文分野と合算し評価する。

6. 書写について

各月、1時間程度の書写の時間を設ける。 担当教諭：木立 マリコ

年間指導計画

学期	試験	授業内容（教材）
第一学期	単元① 単元② 単元③ 単元④	百人一首 1～10 漢文「学びて時に之を習ふ—論語から」その1 百人一首 11～20 漢文「学びて時に之を習ふ—論語から」その2 百人一首 21～30 和歌の世界・古今和歌集仮名序 百人一首 31～40 万葉集
第二学期	単元⑤ 単元⑥ 単元⑦ 単元⑧	百人一首 41～50 古今和歌集 百人一首 51～60 新古今和歌集 百人一首 61～70 おくのほそ道 その1 百人一首 71～80 おくのほそ道 その2
第三学期	単元⑨ 単元⑩	百人一首 81～90 百人一首 91～100

③ 中学3年 国語（講読・表現分野）

単位数	5単位の1
担当	時田 実和
教科書	指定された図書・国語3（光村図書）・新 中学問題集
対象生徒	中学3年

1. 授業の目標

「言葉」を楽しみ、文学作品に親しむ気持ちを育てる。

教科書の「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の分野を学習し、国語の応用・発展的な力をつける。

到達目標

- (ア) 本を年間30冊以上読む。
- (イ) 読んだ本について感想や意見を書くことができる。
- (ウ) 自分の考えたことを文章にまとめたり、スピーチをしたりして伝えることができる。
- (エ) 初見の文章を読み解く力をつける。

2. 教科書・副教材・参考書

・国語3（光村図書） ・新国語便覧 ・指定された図書

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- (ア) 学習活動・課題は積極的に取り組めるよう工夫する。
- (イ) 提出物は完成した形で、期限を守って提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- (ア) 宿題…1か月単位で出す。
- (イ) 課題…1単元終了ごとに、レポート作成やスピーチの発表会を実施する。

5. 評価の基準について

課題の評価を中心として評価をつける。その他の基準としては宿題の提出状況とする。  
上記の課題は主にパフォーマンス評価の中に盛り込むこととする。

6. 指定図書

『羊と鋼の森』 宮下奈都 （文藝春秋）

## 社会（公民）（2026年度）

単位数	4単位
担当	壽福ちなみ
教科書	社会科 中学生の地理(帝国書院) ・ 中学社会 歴史 未来をひらく (教育出版) ・ 新しい社会 公民(東京書籍)
対象生徒	中学3年

### 1. 授業の目標

- ・ 明治時代～現代までの歴史を学ぶことで、現代社会の理解へつなげる。
- ・ 現代社会の課題や問題点について、主体的に関わる姿勢を身に付ける。
- ・ 歴史・公民分野の基本的な知識を押さえながら、社会が抱える問題について関心を深め、理解できるようにする。
- ・ クラスメートと意見交換をし、よりよい未来の実現へ自分の意見を持ち、表現できるようにする。

### 2. 副教材・参考書

- ・ マイクリア 社会(教育開発出版)

### 3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・ 中学3年生の社会では、近現代の歴史と公民分野など、総合的な学習をします。現在の世界の様子を理解し、考えを深めるためには、これらの分野の学習は必要不可欠です。自分と世界とのつながりを考えながら、学習していきましょう。
- ・ 授業中に学習したことをその日のうちに復習していくことが大切です。用語は間違いがないように、きちんと書き取る練習をしましょう。
- ・ 中学1年生から積み重ねてきた社会科の知識を定着させるために、問題演習に取り組みます。家庭でも問題に取り組みながら、力を蓄えていきましょう。
- ・ 自分自身の意見や考えを持ち、それを相手に伝える力をつけましょう。同時に、相手の意見を真摯に聞く姿勢も大切です。お互いを理解し合う関係性を築いていきましょう。
- ・ 「なぜ」「どうして」という素朴な疑問を解決しながら、授業に参加しましょう。

### 4. 宿題・課題・再試について

- ・ 問題集「マイクリア」を適宜宿題とする。
- ・ 長期休暇や授業の内容によって、課題や調べ学習の宿題が出される。
- ・ 単元テストの結果が50点未満の場合は再試を受験しなければならない。再試に代わる課題を課す場合もある。

### 5. 評価の基準について

- ・ 単元テストの平均点(50%)、外部試験(30%)、パフォーマンス評価(20%)により評価をする。

### 6. その他 ※授業進度により内容は変更する場合があります。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	単元別 テスト ①・②  まとめ テスト	地理 ・中部地方 ・関東地方 ・東北地方 ・北海道地方  歴史 ・明治維新と立憲国家への歩み ・激動する東アジアと日清／日露戦争 ・近代の産業と文化の発展  公民 ・現代社会の特色と私たち ・私たちの生活と文化 ・現代社会の見方や考え方 ・人権と日本国憲法 ・人権と共生社会 ・これからの人権保障
二学期	単元別 テスト ③・④  まとめ テスト	歴史 ・第一次世界大戦と民族独立の動き ・大正デモクラシー ・恐慌から戦争へ ・第二次世界大戦と日本の敗戦 ・日本の民主化と冷戦 ・世界の多極化と日本 ・冷戦の終結とこれからの日本  公民 ・現代の民主政治 ・国の政治の仕組み ・地方自治と私たち ・消費生活と市場経済 ・生産と労働 ・市場経済の仕組みと金融 ・財政と国民の福祉 ・これからの経済と社会
三学期	単元別 テスト ⑤	公民 ・国際社会の仕組み ・さまざまな国際問題 ・これからの地球社会と日本 ・より良い社会を目指して

単位数	5 単位
担当	山口貴史
教科書	数研出版 改訂版中学校数学 3
対象生徒	中学 3 年 必修

1. 授業の目標

- ・数の平方根について理解し、数の概念についての理解を一層深める。また、目的に応じて計算したり式を変形したりする能力を一層伸ばすとともに、二次方程式について理解し、式を能率的に活用できるようにする。
- ・図形の相似や三平方の定理について、観察、操作や実験を通して理解し、それらを図形の性質の考察や計量に用いる能力を伸ばすとともに、図形について見通しをもって論理的に考察し表現する能力を伸ばす。
- ・具体的な事象を調べることを通して、関数  $y = a x^2$  について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を伸ばす。
- ・これらの能力の涵養は SDGs の第 9 目標、「産業と技術革新の基盤をつくろう」の精神に資するものである。

2. 副教材・参考書

新学社：数学のベーシックマスター 3 年  
 数研出版：中学数学 スタンダード問題集 3 年

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

予習のポイント：教科書の内容を読み、その単元の関係ある中学 2 年までの内容をしっかり復習し理解しておく。  
 復習のポイント：その日の授業で解いた問題を、もう一度解き、答え合わせをする。この勉強を毎日積み重ねることにより、確実な力を身につける。また、1 つの単元が終わるごとに、問題集等でもう 1 度自分の理解・記憶を確かめることも大事である。基本的な学力が身についたら問題集の応用問題を数多く解き、数学的な応用力・思考力を身につくように努力する。

4. 宿題・課題・再試・評価について

- ・ M' Range Test は毎週課題を提出し、テストを行う。
- ・宿題は、プリント、問題集など適宜出題する。
- ・定期試験 50 点以下再試 50% の評価
- ・学力試験 30% の評価
- ・ P 評価 M レンジテスト 5% の評価 提出物 5% の評価
- ・ふり返り 5% 発表課題 5%

5. 評価の基準について

- ・単元末試験の得点(基本問題 80%、応用・初見問題 20%)、振り返り・提出物・小テストにより評価をする。また、提出物に関しては、通常の課題の提出の結果状況に毎日課す課題の提出率を乗じて算出する。

6. その他

授業計画は変更されることがある。

年間指導計画

学期		教科書ページ 単元配当時間	授業内容 (教材)	指導内容・単元目標・実験・備考等
第一学期	①	4月 6時間	第1章 式の計算 ①多項式の計算 ②因数分解 ③式の計算の利用	多項式の計算ができる。素因数分解と因数分解の意味を理解し簡単な多項式の因数分解をすることができる。数や図形の性質を調べるのに、素因数分解を利用することができる。
	②	5月 9時間	④素因数分解	
	③	6月 15時間	第2章 平方根 ①平方根 ②根号を含む式の計算	新しい数「平方根、有理数と無理数」を知り、平方根を含むいろいろな計算をすることができる。
	④	6月 15時間	第3章 2次方程式 ①2次方程式 ②2次方程式の利用	2次方程式とその解の意味を理解し、その形に応じて能率良く解くことができる。2次方程式を利用していろいろな実際の問題を解くことができる
夏期	⑤	8月	第4章 関数 $y = ax^2$ ① 関数 $y = ax^2$	具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して $y = ax^2$ 等について理解する。グラフの特徴と関数のとる値の変化の割合について理解する。
第二学期	⑥	9月 6時間	②関数の利用	$y = ax^2$ 等について理解する。グラフの特徴を活かして様々な量の計算をすることができる。
	⑦	10月 9時間	第5章 相似な図形 ①相似な図形	形が同じであるということを相似という言葉で理解できる。
	⑧	10月 10時間	②平行線と線分の比 ③面積の比 第6章 円	図形の性質を三角形の相似条件を基に確かめ、論理的に考察し表現する能力を伸ばす。相似や平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを利用して、長さや角度、面積や体積を求めることができる。
	⑨	11月 9時間	①円	円の定義とその性質を理解し、角度や長さ面積を求めることができる。
	⑩	12月 11時間	第7章 三平方の定理 ①三平方の定理 ②三平方の定理の利用	三平方の定理とその逆の定理の意味が理解できる。三平方の定理を利用して面積、体積、長さなどを求めることができる。
第三学期		1月	第8章 標本調査 ①母集団と標本	標本調査について理解し、身のまわりの事象について標本調査から母集団を推測する。 3年間のすべてを復習し、クラス編成試験にむけて演習中心に行う。 高校での基礎となる力を磨く。
		2月 3月	3年間のまとめ ・計算練習 ・単元まとめ問題 ・実力アップ問題  高校の予習	クラス編成試験後 高校の授業の予習を行う。

単位数	4単位
担当	菱山
教科書	科学3 (学校図書)
対象生徒	中学3年生

1. 授業の目標

科学的現象についての実験・観察を行い、自然に対する関心を高め、基礎知識を身につけ、地球規模での環境問題等について持続可能な開発目標(SDGs)を科学的な視点で考えていく態度を養う。

2. 副教材・参考書

Key ワーク中3 (教育開発出版)

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

授業後にその日学習した内容について、教科書・ノートを見直し、復習をする。  
副教材のテキストを解き、基礎用語を確認し、応用問題で分からないところは質問をする。

4. 宿題・課題・再試について

宿題：定期的に問題集を宿題として出します。提出状況をパフォーマンス評価の対象とします。  
長期休暇には、別問題集やレポートなどを宿題として出します。  
再試：単元別(まとめ)試験の点数が基準に満たない場合、再試験を行います。

5. 評価の基準について

・定期試験(50%)、学力試験(30%)、パフォーマンス(20%)により評価をする。

6. その他

授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容
一学期	単元①	[化学]化学変化とイオン 【産業と技術革新の基盤をつくろう】 1章 水溶液とイオン
	単元②	2章 酸・アルカリとイオン
	単元③	3章 電池とイオン 【エネルギーをみんなにそしてクリーンに】
	単元④	[生物]生命の連続性 【すべての人に健康と福祉を】 1章 生物の成長・生殖
	単元⑤	2章 遺伝と進化
二学期	単元⑥	3章 生態系 【海の豊かさ・陸の豊かさも守ろう】
	単元⑦	[物理]運動とエネルギー 【エネルギーをみんなにそしてクリーンに】 1章 力の性質
	単元⑧	2章 力と運動
	単元⑨	3章 仕事とエネルギー
	単元⑩	[地学] 1章宇宙を観る 【エネルギーをみんなにそしてクリーンに】
三学期	単元⑪	2章 太陽や星の見かけの動き
	単元⑫	3章 天体の満ち欠け
	単元⑬	自然・科学技術と人間

保健体育(2026年度)

単位数	3単位
担当	井上
教科書	最新中学校保健体育(大修館)
対象生徒	中学3年 ※選択等であれば記載

1. 授業の目標

- ・運動の楽しさや喜びを味わい、基本的な技能を身に付ける。
- ・運動を通して体力の向上を図る。
- ・競走や協同の経験を通して公正さ・協力性・自分の役割を知ることが育てる。
- ・生涯を通しての健康の大切さを学ぶ。

2. 副教材・参考書

ステップアップ中学体育(大修館)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・ケガのないように準備運動をしっかりと行う。
- ・説明をしっかりと聞き、安全を第1に考える。

4. 宿題・課題・再試について

各運動における競技施設やルールについて調べ学習をおこなう。

5. 評価の基準について

- ・保健の定期試験(40%)、実技試験(40%)、課題提出(20%)により評価をする。

## 6. その他

授業計画 (スポーツ)		
学期		授業内容 (教材)
一学期	実技	スポーツテスト 50M走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び 体育祭種目練習 水泳 クロール・平泳ぎ
二学期	実技	ゴルフ 基礎練習 (スウィング) ゲーム バドミントン 基本動作 ストローク サーブ 持久走 グラウンド3周・5周
三学期	実技	卓球 乱打 簡易ゲーム

授業計画 (保健)		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	単元 まとめ テスト	ケガの防止 けがの原因と防止 交通事故によるけがの防止 犯罪被害の防止 自然災害への備えと避難 応急手当の基本 けがの応急手当 心肺蘇生法
二学期	単元 まとめ テスト	けがの応急手当 心蘇生法 健康を左右するもの 運動と健康 食事と健康 休養睡眠と健康 生活習慣病と健康 喫煙と健康 飲酒と健康
三学期		薬物乱用と健康 感染症と病原体 感染症の予防

中学3年 音楽(2026年度)

単位数	1単位
担当	加瀬智子
教科書	中学生の音楽 2,3下 (教育芸術社)
対象生徒	中学3年

1. 授業の目標

- ・音楽活動を通して、表現の能力を高めるとともに、音楽を愛する心を育む。
- ・音楽の構造に関心を持ち、主体的に表現を工夫して取り組む。
- ・鑑賞を通して、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

2. 副教材・参考書

中学生の器楽(教育芸術社)

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・合唱、合奏はクラスで一つのものを作り上げることを主とするので、授業では指示や説明をしっかりと聞き、集中するよう心がける。(授業準備なども含む)
- ・実技(歌唱、リコーダー)の上達に向けて、積極的に授業に参加することが望ましい。
- ・プリント類などの提出物は期限内に提出する。
- ・授業内筆記テスト前には確認プリントを復習してから受験する。
- ・歌唱や器楽の練習の参考になる音源や動画を使い、授業の振り返りを行う。

4. 宿題・課題・再試について

授業中に終わらなかった課題は宿題とする。

5. 評価の基準について

- ・学期毎に授業内で筆記テスト(小テスト)と実技テスト(歌唱、リコーダー)を行い、実技テストを重視する。
- ・実技70% 筆記20% 提出物10% ※割合は学習内容に応じて変更する場合がある。
- ・実技試験の評価基準は、指導の中であらかじめ生徒に伝える。

6. その他

授業計画は予定であり、内容が変更となる場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	期末	歌唱 花 花の街 鑑賞 ブルタバ(モスダウ) スメタナ作曲 楽典 音符、休符について、音名
二学期	期末	器楽 アルトリコーダー 虹のかなたに ラヴァーズコンチェルト 歌唱 早春譜 仏教聖歌(道元禅師賛歌、成道会の歌、四弘誓願文) 鑑賞 ポピュラー音楽
三学期	学年	合唱 合唱祭に向けて 鑑賞 世界の諸民族の音楽

中学3年美術（2026年度）

単位数	1単位
担当	高橋 千草
教科書	美術2・3上下 日本文教出版
対象生徒	中学3年

1. 授業の目標

- (1) 主体的に美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
- (2) 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。
- (3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。

2. 副教材・参考書

特になし

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・授業内で疑問を解決し、計画的に作品を完成できるような姿勢で参加することが望ましい。
- ・授業を欠席した場合は提出期限前までに放課後自主的に不足分を補う事が望ましい。
- ・課題制作の上で試行錯誤しながらも粘り強くチャレンジする姿勢が望ましい。
- ・課題は期限までに完成させ必ず提出する。

4. 宿題・課題について

- ・授業内で課題が完成されない場合は宿題となる。

5. 評価の基準について

- ・各学期の課題（提出物100%）により 評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける

6. その他

- ・授業計画は予定であり、授業の進捗状況により課題の増減がある場合もある。
- ・リモート授業等で授業内容の変更あり

	授業計画
1学期	コマ撮りアニメーション デザイン（ピクトグラム）
2学期	立体（オブジェ） 鑑賞（錯視） 絵画（自画像）
3学期	絵画（自画像）

## 中3英語(2026年度)

単位数	6単位
担当	山本・ンクナ・ジョセフチャック
教科書	Here We Go(光村出版)
対象生徒	中学3年

### 1. 授業の目標

- ・教科書の内容を何度も繰り返し、聞く・書く・話す・読むことによって、中学英語の定着を図り、さらに自分に必要な課題を設定して、自ら学ぶ姿勢を養成する。また、授業内のコミュニケーション活動やオンライン英会話を通して、簡単な英語で会話を続けることができる力を鍛える。
- ・シンガポールの修学旅行に向けて、日本の文化を英語で効果的に紹介するにはどうすればよいか考え表現することができる。また、修学旅行中の日常的な場面を想定して会話する練習をし、現地の人々と英語でやりとりをすることができるコミュニケーション能力を育成する。

### 2. 副教材・参考書

- 光村図書出版：デジタル教科書
- 光村図書出版：ラウンドシステムワークブック 3
- 光村図書出版：中学必修テキスト 3年
- 正進社：New Listening Plus 3

### 3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・予習のポイント：各 Unit の内容を音声で聞いて、音声から内容を理解する。
- ・復習のポイント：その日に習った Unit の内容を何度も聞き、音読する。暗唱できるぐらい音読することが英語力の土台を築くために重要である。

### 4. 宿題・課題・再試・評価について

- ・E-range test は教科書の新出単語を中心に出题する。70点以下の者は再試をする。
- ・宿題は、音読・ワークブック・ライティング等を適宜課題として出す。
- ・単元テストは結果の50%未満は再試あり。

### 5. 評価の基準について

- ・単元テスト(50%の評価)、学力試験(30%の評価)、パフォーマンス(20%評価)とする。
- ・パフォーマンスの評価は英会話の授業での発表が10%の評価、提出物・音読が10%の評価となる。

### 6. その他

- ・自分にとって必要な英語課題を探して、毎日継続すること。
- ・受験問題にも対応できるように長文読解も授業の中に取り入れていく。また、スピーチコンテストへ向けて積極的な参加を促す。
- ・各学期の最後には、プレゼンテーション(個人・グループ)やスキット発表などの発表活動を課すことがある。

授業計画			
学期	単元テスト	授業内容 (教材)	Kimini 英会話
一学期	4月 単元テスト1	Round1&2 Unit1~Unit3 までリスニングと文字と音声の一致 教科書本文のおおまかなストーリー理解が目標。繰り返し教科書本文の内容を聞き、それぞれのUnitのストーリーの概要や登場人物の特徴などを捉えることができる。	
	5月 単元テスト2	Round3&4 Unit1 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit1本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。	第1回
	6月 単元テスト3 単元テスト4	Round3&4 Unit2&3 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit2&3本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。	第2回
	7月 単元まとめ テスト	単元テスト1~4の内容をまとめるテスト。	第3回
	8月	夏期セミナー	第4回
二学期	9月 単元テスト5	Round1&2 Unit4~Unit6 までリスニングと文字と音声の一致 教科書本文のおおまかなストーリー理解が目標。繰り返し教科書本文の内容を聞き、それぞれのUnitのストーリーの概要や登場人物の特徴などを捉えることができる。	第5回
	10月 単元テスト6 単元テスト7	Round3&4 Unit4&5 音読と教科書の内容の定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit4&5の本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。	第6回
	11月 単元テスト8	Round3&4 Unit6 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit6の本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。	第7回
	12月 単元まとめ テスト	単元テスト5~8の内容をまとめるテスト。	第8回
三学期	1月 単元テスト9	Round1 Unit7~Unit8 までリスニングと文字と音声の一致 教科書本文のおおまかなストーリー理解が目標。繰り返し教科書本文の内容を聞き、それぞれのUnitのストーリーの概要や登場人物の特徴などを捉えることができる。 Round2&3&4 Unit7&8 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit7&8の本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。	第9回 第10回
	2月		

授業計画は変更になる可能性があります。

技術家庭（2026年度）

単位数	1単位
担当	田村（技術）、関野（家庭）
教科書	新 技術・家庭（教育図書）
対象生徒	中学3年

1. 授業の目標

保育、消費生活、情報などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、生活の中の課題を見つけ、解決方法を考える力を養う。

SDGsの目標「12 つくる責任、つかう責任」：私たちの消費生活が社会や環境に及ぼす影響を考え、消費者として責任ある行動ができるようになるう。

2. 副教材・参考書

- ・はさめるマスコット製作（アイセック フリースでつくるはさめるマスコット）

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・製作や課題に集中して取り組み、提出期限を意識して、余裕をもって仕上げるよう努力する。

4. 宿題・課題・再試について

- ・課題、作品などが授業時間内で完成しない場合は、放課後補習や宿題等で対応する。
- ・試験の結果が50点未満の場合は、再試験または課題を課す。

5. 評価の基準について

1学期は作品(100%)、2学期はまとめテスト(80%)と課題(20%)、3学期は課題(100%)により評価。

6. その他

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	なし	A 家族・家庭生活 ・家族・家庭や地域とのかかわり ・幼児の体と心の発達 ・幼児の生活と生活習慣 ・遊びと発達のかかわり ・幼児の発達を支える大人の役割 (実習)はさめるマスコット
二学期	まとめ テスト	C 消費生活・環境 ・買い物をふり返る ・契約の意味を考える ・いろいろな販売・支払い方法 ・消費者トラブルを防ごう ・消費者を守る仕組み ・消費者の権利と責任 ・消費生活が社会や環境に及ぼす影響を考える
三学期	なし	技術分野 情報に関する技術 (実習)コンピュータプログラミング

中3探究(2026年度)

単位数	1単位(10月りんどう祭後～)
担当	鈴木・時田・栗山・山口
教科書	なし
対象生徒	中3美

1. 授業の目標

- ・シンガポールの文化・歴史・政治・経済・多様性などに興味・関心を持ち、探究課題を発見し、考察を深めることで、グローバルな視点や考え方を養う。
- ・中1・中2で学んだ探究学習のスキルを磨く。

2. 副教材・参考書

なし

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・シンガポール修学旅行の事前学習で、
- ・各教科で取り組むシンガポール関連の内容を生かして取り組む

4. 宿題・課題・再試・評価について

- ・夏休みの宿題で、調べ学習を課す
- ・授業以外の時間で、探究課題に関する調べ学習が必要となる。

5. 評価の基準について

- ・授業の態度、出欠席、各自の探究の充実度を考慮に入れる。

授業計画			
学期		項目	授業内容(教材)
2 学期	10/14	シンガポールについて ・問いを立てるなどの クラス活動 ・課題別のグループ活動 ・調べ学習などの個人 活動	シンガポールクイズ 問いの立て方 各項目の調べ学習 解決策の考察 発表準備 (順不同)
	10/21		
	10/28		
	11/4		
	11/11		
	11/18		
	12/2		
3 学期	1/13	発表リハーサル	クラス内での発表リハーサル
	1/20	内容修正	不足点などの修正
	1/27	成果発表会	成果発表会

中3書写 2026年度

単位数	月1単位
担当	木立マリコ
教科書	中学書写（光村図書）
対象生徒	中学3年美

1. 授業の目標

字形を整え文字の大きさ、配列、配置に気を付けて書く。  
目的に応じて楷書、行書を使い分ける。

2. 副教材・参考書

別冊 書写ブック

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

時間配分を考え、できるだけ集中して練習できるようにする。  
用具の取り扱いに十分注意する。

4. 宿題・課題・再試について

基本的に2時間で一度、作品提出をする。  
夏季の蒔絵キットは4時間で作品を仕上げる。

5. 評価の基準について

提出作品により基本となる評価を付ける。  
提出作品は全体の八割を占め、残りの二割がノート点と授業態度点。  
作品の出来があまり良くなくても、コツコツと努力を重ねている者に関しては考慮する。

6. その他

年間計画は変わる場合がある。

学期	月	時	単元・教科書ページ	授業内容 (教材)	指導内容・備考等
1	4	1	姿勢・筆記具の持ち方 用具の準備・片付け 運筆の練習	P、30～39  プリント	・用具・学習態度の確認
	5	2	行書の学習「輝ける未来」 夏休みの課題 蒔絵キット作成	P、58～78 プリント	・行書の筆使い0 ・言葉選び、下書き練習
2	9	1	蒔絵キット完成させる	プリント	りんどう祭で展示できるようにする
	10	2	硬筆の学習 手紙の書き方	P、110～113	・正しい姿勢と硬筆の持ち方
	11	1	書き初め	P153	・条幅に書く ・行書と仮名の調和 ・名前の大きさ、位置にも注意
3	1	1	冬休みの課題 書き初め		・10枚書いて提出

21WS 前期 中国語(2026 年度)

単位数	1 単位 (10 月りんどう祭まで)
担当	中村 敦子、早川 日加里、鈴木 若葉、ES
教科書	オリジナルプリント
対象生徒	中学 1 年生～中学 3 年生

1. 授業の目標

- ①中国の音声と音のしくみに親しみ、日常の挨拶や自己紹介を中国語でできるようにする。
- ②中国の文化や生活に興味を持って、日本との違いを比較してみる。

2. 副教材・参考書

オリジナルプリント

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

授業で配布するプリントをファイリングして、毎回の授業に持ってくること。

授業で学んだ中国語表現を家庭でも発音してみること。

中国について、観光やドラマ、文化など、興味・関心のある分野で自ら調べるなどすると、より学習効果がある。

4. 宿題・課題・再試について

りんどう祭発表に向けて、調べ学習やプレゼン用のスライド作成など課されることがある。

発表は、授業内で意見を出しあい、内容を決定する。

5. 評価の基準について

- ・ 授業への出席状況によって評価する。

6. その他

・ 中 1 は、韓国語・フランス語・中国語のうち必ず 1 つを選択する。中 2・中 3 は、日本文化・プログラミングを加えた 5 つから 1 つを選択する。

- ・ りんどう祭では、全ての授業が、講堂ステージで、成果発表を行う。

授業計画	
学期	授業内容 (教材)
前期 (りん だう 祭 ま で)	1. 様々な中国語の挨拶 2. 中国語で自己紹介、自分の名前を中国表記で書く 3. 中国の発音(ピンインと声調のしくみ) 4. 簡体字と繁体字 5. 中国の文化と生活 6. 基本的な中国語の会話 7. 基本的な中国語の文法 8. りんどう祭に向けての発表準備

## 21WS 前期 韓国語 (2026 年度)

単位数	1 単位
担当	権 本間 井上 山本 (里)
教科書	なし (オリジナルプリント)
対象生徒	中学 1 年生～中学 3 年生

## 1. 授業の目標

- ①韓国語の基礎を習得し、日常の挨拶や自己紹介を韓国語でできるようにする。
- ②韓国の文化や生活に興味を持って、日本との違いを比較してみる。

## 2. 副教材・参考書

オリジナルプリント

## 3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・授業で配布するプリントをファイリングして、毎回の授業に持ってくること。
- ・授業で学んだ韓国語表現を家庭でも発音してみること。

## 4. 宿題・課題・再試について

りんどう祭に向けて、調べ学習やプレゼン用のスライド作成などを課されることがある。

## 5. 評価の基準について

授業への出席状況によって評価する。

## 6. その他

授業計画	
学期	授業内容 (教材)
前期 (りんどう祭まで)	1. 韓国語の挨拶 2. 韓国語で自己紹介 3. 韓国語の発音 (母音と子音のしくみ) 4. ハングル文字の書き方 5. 韓国の文化と生活 6. K-POP について 7. 韓国語の基本文法 8～13. りんどう祭に向けての発表準備

単位数	1 単位
担当	講師, 平田, 山口, 山本
教科書	特になし
対象生徒	中学 1 年生～中学 3 年生

1. 授業の目標

フランス語とともにフランスの文化に興味を持ち自ら探究し、その魅力を発信できるようになることを目標とする。言語そのものでは、日常に溢れるフランス語を見つけ、その読み方・響きに慣れていく。最終的にはフランス語で自己紹介が出来たり、旅行をした際に現地の人と最低限のコミュニケーションができるようにする。

文化の面では、絵画や音楽等の芸術、料理、ファッションなど、フランス由来のものが何かをまず知り、それらの魅力を探っていく

2. 副教材・参考書

とくになし。教員作成の資料など

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

フランス語独特の響き、リズムがあります。積極的に発音をして楽しんでいきましょう。

4. 宿題・課題・再試について

りんどう祭前には、発表資料の作成などがあります。

5. 評価の基準について

・授業への出席状況によって評価する。

6. その他

授業計画		
学期	授業内容 (教材)	
前期 (りんどう祭まで)	①4.15 オリエンテーション (自己紹介、クイズ)、ABC	
	②5.13 基本的な挨拶、体調を尋ねる (体調が良い場合、悪い場合)	
	③5.20 名前、住んでいるところ、兄弟 (友達) やペットについて話す (ポールとヴィルジニー)	
	④5.27 アイスと色 椅子取りゲーム	
	⑤6.3 『星の王子さま』の朗読 (CD や youtube の動画を用いる)	
	⑥6.10 りんどう祭班分け、発表準備 (1 「体調 (②) & 自己紹介 (③)」、 「アイス (④)」、 『星の王子さま』 (⑤))	
	⑦6.17 ⑧7.1 ⑨9.9 ⑩9.16 ⑪9.30 りんどう祭発表準備	
	⑫10.7 りんどう祭授業内リハーサル	
	⑬10.10 りんどう祭当日	
	〈りんどう祭の発表〉	
	1 「体調 (②) & 自己紹介 (③)」、 2 「アイス (④)」、 3 『星の王子さま』 (⑤)」 の 3 グループに分かれて発表する。 ※グループの数は変動の可能性がある	
	1 フランス語で体調を尋ね合う、自己紹介をする (可能な人は自分のペットの写真を見せる)	
	2 アイスの絵、または画像を作成し、それを見せながら、アイス絵を用いて説明された教科書のフランス語 (～が好きである、色) を暗唱する	
3 『星の王子さま』の内容紹介とフランス語での朗読を行う		

## 21WS 前期(2026 年度)

単位数	1 単位 (10 月りんどう祭まで)
担当	茶道：池永 華道：菅 中野・栗山・時田
教科書	
対象生徒	中学 2 年生・中学 3 年生

## 1. 授業の目標

- ①茶道と華道を体験することで、日本の伝統文化の理解を深める。
- ②技術や作法の習得をするとともに、こころを豊かにする。

## 2. 副教材・参考書

なし

## 3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・時間に遅れずに集合する。
- ・挨拶・言葉遣いなど礼儀正しく授業に参加する。
- ・技術の習得のために、繰り返し練習を行う。

## 4. 宿題・課題・再試について

りんどう祭発表に向けて、技術の習得のため練習を行う場合がある。

## 5. 評価の基準について

- ・授業への出席状況によって評価する。

## 6. その他

- ・中 1 は、韓国語・フランス語・中国語のうち必ず 1 つを選択する。中 2・中 3 は、日本文化・プログラミングを加えた 5 つから 1 つを選択する。
- ・りんどう祭では、全ての授業が、講堂ステージで、成果発表を行う。

授業計画		
学期	日程	授業内容 (教材)
前期 (りんどう祭まで)	4 月 15 日	日本文化ガイダンス (短縮授業) 9:40~10:30
	5 月 13 日	華道① 9:50~10:40
	5 月 20 日	華道②
	5 月 27 日	華道③
	6 月 3 日	華道④ (短縮授業) 9:40~10:30
	6 月 10 日	茶道①
	6 月 17 日	茶道②
	7 月 1 日	茶道③
	9 月 2 日	中 1 不在のため なし
	9 月 9 日	茶道④
	9 月 16 日	茶道・華道 りんどう祭の発表練習
	9 月 30 日	茶道・華道 りんどう祭の発表練習
	10 月 7 日	茶道・華道 りんどう祭の発表練習 (短縮授業)
	10 月 9 日 (金)	りんどう祭準備内でリハーサル
10 月 10 日	りんどう祭当日 発表会	

単位数	1 単位
担当	横溝, 太田
教科書	プリント、iPad
対象生徒	中学2年生～中学3年生

## 1. 授業の目標

- ①プログラミング学習を通して論理的思考を含む情報活用能力を身につける。
- ②簡単なコンテンツ（ゲームなど）を企画しまとめることができる。

## 2. 副教材・参考書

iPad のアプリ、プリントを適宜配布

## 3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・授業で学んだ単元を繰り返し学習する。
- ・公開されているコンテンツなどを参考に予習する。

## 4. 宿題・課題・再試について

りんどう祭に向けてコンテンツを作成し、説明用のプレゼンスライドを作成する。

## 5. 評価の基準について

- ・授業への出席状況によって評価する。

## 6. その他

授業計画	
学期	授業内容（教材）
前期 (りんどう祭まで)	1. プログラミングの基本（逐次処理、イベントドリブン） 2. プログラミングにおける音の取り扱い（拡張機能1） 3. 繰り返し処理のプログラミング 4. 条件分岐のプログラミング 5. 配列データを使ったプログラミング 6. カメラを使ったゲーム（拡張機能2） 7. 夏休み課題 8. りんどう祭に向けてのプレゼン準備